



Press Release

公益財団法人 JR西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229



いのちのセミナー

～さまざまな いのちに向き合い いのちを想う～

開催のお知らせ

2019年度いのちのセミナー(全8回) の講師が決定しました!

このたび、第1回～第8回の講師・日程等が決まりましたので、お知らせします。⇒別紙1
全講師とも、当財団のセミナーで初めての講演です。

2019年度の年間テーマは

“さまざまな いのちに向き合い いのちを想う”

“さまざまな いのち”には、自分自身も含めた世の中の多様ないのち、生き方の意味を込めています。

第1回いのちのセミナーの 参加者を募集します

⇒別紙2

<p>第1回 2019年6月2日(日) 柳家 花緑</p>	<p>別紙2をご参照ください</p>	
<p>第2回 2019年8月2日(金) 宮田 修 千葉県熊野神社宮司 元NHKアナウンサー</p>		<p>1947年千葉県生まれ。元NHKアナウンサー。阪神淡路大震災では、発生直後に第一報を伝える。NHK報道アナウンサーを務めながら神職資格を取得し、2003年に千葉県熊野神社の宮司となる。2008年にNHKを退職した後は、全国で講演活動を展開している。神道には「中今を生きる」という言葉があり、先祖から代々受け継いできた大切な命を次に伝える大切さを訴える。著書に、『こころを楽にする生き方』(ベストセレクト)など。</p>
<p>第3回 2019年8月23日(金) 大津 秀一 早期緩和ケア 大津秀一クリニック院長</p>		<p>1976年茨城県生まれ。早期緩和ケア大津秀一クリニック院長。岐阜大学医学部卒業。緩和医療専門医。2005年京都市の日本バプテスト病院ホスピスに勤務。在宅療養支援診療所、大学病院緩和ケアセンター長を経て、2018年に遠隔診療を導入した日本最初の早期からの緩和ケア専門外来クリニックを開設。がん患者3700名以上、終末期患者は2000名以上の緩和ケア経験がある。著書に、最新刊『1分でも長生きする健康術』(光文社)、25万部のベストセラー『死ぬときに後悔すること25』(新潮文庫)、『大切な人を看取る作法』『傾聴力』(大和書房)など多数。</p>
<p>第4回 2019年9月5日(木) 金菱 清 災害社会学者 東北学院大学教授</p>		<p>1975年大阪府生まれ。関西学院大学大学院修了。現在は東北学院大学教養学部地域構想学科教授。専門は災害社会学。阪神淡路と東日本と二度大きな震災を経験したことから災害について社会的に研究。特に石巻にてタクシードライバーが体験した幽霊現象の論考は、国内外問わず着目される。著書に、編著『呼び覚まされる霊性の震災学—3.11生と死のはざままで』(新曜社)、『私の夢まで、会いに来てくれた』(朝日新聞出版)など。</p>
<p>第5回 2019年9月27日(金) 吉田 実盛 兵庫県 鶴林寺塔頭 真光院住職 叡山学院教授</p>		<p>1961年兵庫県生まれ。1990年、龍谷大学大学院文学研究科仏教学専攻博士後期課程修了。兵庫大学短期大学部教授を経て、現在は天台宗鶴林寺塔頭真光院住職、鶴林寺宝物館学芸員。叡山学院教授。加古川刑務所宗教教誨師。死後の世界への手引き書として知られる平安時代の書「往生要集」に書かれた生と死をみつめる葬儀や法要を実践している。執筆に、『播磨の国宝』(神戸新聞総合出版センター)、『わかりやすい仏教保育総論』(チャイルド新社)など。</p>
<p>第6回 2019年10月17日(木) 入江 杏 世田谷一家殺人事件 被害者遺族 「ミシュカの森」主宰</p>		<p>国際基督教大学卒業。上智大学グリーンケア研究所非常勤講師、世田谷区グリーンサポート検討委員。2000年、世田谷一家殺人事件により、隣地に住む妹一家四人を失う。犯罪被害としての悲しみ・苦しみと向き合い、葛藤の中で「生き直し」をした体験から、「悲しみを生きる力に」をテーマとする講演会等を開催している。また、「ミシュカの森」主宰として、悲しみの発信から再生を模索する人たちのネットワークづくりに努めている。著書に、『悲しみを生きる力に～被害者遺族からあなたへ』(岩波書店)、など。</p>
<p>第7回 2019年11月8日(金) 沼野 尚美 宝塚市立病院 緩和ケア病棟 チャプレン・カウンセラー</p>		<p>武庫川女子大学薬学部卒業。神戸ルーテル神学校修士課程修了。ケンシントン大学大学院行動科学研究科修士課程修了(心理学・カウンセリング修士号取得)。病院薬剤師から病院チャプレンおよびカウンセラーに転職。これまで10箇所のホスピスで勤務し、3,000人以上の方々との生と死に関わってきた。専門はがん患者とその家族の精神的援助と宗教的援助。著書に、『いのちと家族の絆』(明石書店)、『救いは苦しみの中にある』(明石書店)など。</p>
<p>第8回 2020年3月15日(日) 米良 美一 カウンターテナー歌手</p>		<p>1971年宮崎県生まれ。3万人にひとり程度の割合で発症する難病、先天性骨形成不全症を持ち生まれる。1994年バッハ・コレギウム・ジャパンの定期公演で教会カンタータを歌ってデビュー。洗足学園音楽大学卒業後、1996年よりアムステルダム音楽院に留学。カウンターテナー歌手として世界的にも評価されている。1997年「もののけ姫」の主題歌が大ヒット。第12回日本ゴールドディスク大賞、第21回日本アカデミー賞協会特別賞として主題歌賞をそれぞれ受賞。著書に、『天使の声～生きながら生まれ変わる』(大和書房)など。</p>

(敬称略)



いのちのセミナー

～さまざまな いのちに向き合い いのちを想う～

- 1 日 時 2019年6月2日(日) 13:30～15:00 ※13:00 開場
 2 会 場 松下IMPホール (JR・京阪 京橋駅より徒歩10分)
 3 講 師 **柳家 花緑 氏** 落語家

〈演題〉

「いのち」を最大限に使い切る生き方 ～使う「いのち」が我々の使命～

〔柳家 花緑 (やなぎや かるく) 氏 プロフィール〕

1971年東京生まれ。9歳の頃より落語を始め1987年3月、中学卒業後、祖父である故・五代目柳家小さんに入門。1994年、戦後最年少の22歳で真打昇進、花緑と改名。

スピード感溢れる歯切れの良い語り口が人気で、着物と座布団という古典落語の伝統を守りつつも、近年は劇作家などによる新作落語や、都道府県落語を“洋服と椅子”という現代スタイルで口演する「同時代落語」にも挑戦している。

更に、2015年にはバレエの名作“ジゼル”を江戸時代に置き換えた花緑の創作落語「おさよ」と、東京シティ・バレエ団のバレエ「ジゼル」いう異色のコラボレーションが実現した『花緑のバレエ落語「おさよ」』を公演。好評をいただき、2017年には東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団が加わり『新・おさよ』として再演された。

また落語会以外の活動も精力的に行っており、テレビ・舞台などでも、ナビゲーターや俳優として幅広く活躍中。著書に『花緑の幸せ入門「笑う門には福来たる」のか?～スピリチュアル風味～』(竹書房)



- 4 主 催 等 主催／公益財団法人 JR西日本あんしん社会財団
 協力／西日本旅客鉄道株式会社
- 5 定 員 800名(参加無料)
 ※事前のご応募が必要です。応募者多数の場合は抽選とし、当選者の発表は参加証の発送(5月16日頃予定)をもって代えさせていただきます。
 ※当日は、参加証をお持ちの方のみ入場していただけます。
- 6 応募方法 当財団ホームページ (<https://www.jrw-relief-f.or.jp/>) からご応募ください。
 ※ハガキでもご応募いただけます。「第1回いのちのセミナー参加希望」と明記のうえ、参加される方の氏名(フリガナ)・郵便番号・住所・電話番号を記載し、下記の宛先へお送りください。
- 〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号 JR西日本あんしん社会財団
- ※1名様1回(ハガキは1枚)限りのご応募とさせていただきます。また、1回に2名様以上のご応募はお受けできませんので、あらかじめご了承ください。
- 7 応募締切 2019年5月7日(火) ※ハガキの場合は必着
- 8 そ の 他 報道関係者用の座席をご用意いたします。取材をご希望の場合は、5月24日(金) 17:00までに当財団までご連絡いただきますようお願いいたします。(TEL: 06-6375-3202)
 なお、インタビューなど、講演とは別の時間を必要とする場合は、講演者側と調整のうえ回答させていただきます。
 セミナーの概要は、ホームページ (<https://www.jrw-relief-f.or.jp/>) でもご覧いただけます。